

パネルディスカッション(市民フォーラム)

テーマ：災害を乗り越えて幸せに暮らすには
～己の持つ絆を再確認しよう～



コーディネーター

財団法人 宮城県肢体不自由児協会 副会長

きたじま こういち
北島 宏一

パネリスト

きょうされん宮城支部 全国理事(東北ブロック担当)

かぶき たかなお
株木 孝尚

宮城県肢連：CIL たすけっと 副代表

すぎやま ひろのぶ
杉山 裕信

秋田県肢連：秋田市肢体不自由児者父母の会 事務局長

わたなべ けいこう
渡邊 啓宇

青森県肢連：青森県肢体不自由児・者父母の会連合会 会員

みうら せしむ
三浦 令

岩手県肢連：岩手県立盛岡となん支援学校 副校長

すがわら けいこ
菅原 敬子

福島県肢連：福島県手をつなぐ親の会連合会 副会長

さとう やすこ
佐藤 保子

パネリストの発表

きょうされん宮城支部

全国理事(東北ブロック担当)

かぶき たかなお
株 木 孝 尚



「被災障害者支援の実態と課題」

経過

2011年3月23日「被災障害者を支援するみやぎの会」発足と同時に「JDFみやぎ支援センター設立」を承認し、3月30日に仙台市太白区にある仙台ワークキャンパスに支援センターを開設し、県内すべての領域における障害者の安否確認とニーズ調査を開始いたしました。

被災当初は道が寸断されて時間がかかり過ぎるため、4月末、登米市に北部支援センターを開設し、気仙沼市や南三陸町エリアに対応しました。

又、東部道路や三陸道の渋滞がひどく不便なので、8月に涌谷町に東部支援センターを開設し、石巻市や女川町エリアに対応致しました。

支援状況の変化に伴い、10月には北部支援センターを東部支援センターへ統合し、12月4日にJDFみやぎ東部支援センターを閉所し、全国からの支援員派遣を終決しました。

2012年3月、みやぎの会60団体をベースに「JDF宮城」を設立し、JDFみやぎ支援センターの支援活動を引継ぎ、仮設住宅訪問などの取り組みを継続しています。

支援体制

南は沖縄から北は北海道まで全国から延べ6,000人以上の専門家が実人数で800人以上来県され支援頂きました。

宮城県全域の障害者手帳保持者の総数は、被災前は10万3千人以上で、沿岸部は5万3千人以上です。この内、支援センターの確認対話人数は、1,593人でした。全国からの支援員実人数800名以上、延べ6千名以上の支援員の活動があった割には、個人情報保護条例の壁が厚かったことを示しております。

宮城県内被災状況

＜住民死亡率と障害者死亡率＞2012年2月末現在の調査

宮城県沿岸部13市町（亶理町・仙台市を除く）

・住民死亡率＝0.8%、障害者死亡率＝3.5%（身障3.9%・精神＝3.1% 知的1.5%）

●仙台市を除くと、障害者の死亡率は一般住民の約4倍に達しています。

2012年9月現在、仙台市・亶理町を含めると約2.6倍になることが分かりました。

＜障害者支援事業所の被災状況＞2011年4月22日現在 JDF 調査結果

・流失7ヶ所・焼失1ヶ所・全壊22ヶ所・半壊63ヶ所 合計93ヶ所

＜宮城県応急仮設住宅市町別戸数及び沿岸部障害者数＞

宮城県15市町仮設住宅の合計は406カ所、22,095戸数中、障害者戸数＝71

・2月末現在での障害者入居世帯数＝1,548

見えてきた課題

1. 被災障害者の正確な実態把握に関して
 - ・「障害者手帳」の所持者の場合
個人情報保護条例の問題（日数限定で目的外使用可）
 - ・「障害者手帳」の非所持者の場合
通常的生活環境の問題（地域住民とのつながり度合い）
 - ・平等という名の支援体制について
一般と障害者の人的被害は平等ではない。
2. 障害者・高齢者等災害時の避難に関して
 - ・指定避難所への避難困難
 - ・物理的、人的措置不十分
 - ・身体的・精神的負担（不便と遠慮）
 - ・福祉避難所の認知の低さ及び遠距離の問題
 - ・県外に避難した被災障害者の把握と支援体制
3. 応急仮設住宅に関して
 - ・周辺の砂利問題（敷地の舗装）
 - ・室内の改修問題（スロープや手すりの設置・通知の不徹底）
 - ・障害者用住宅の不足及び画一的発注
4. 災害時における情報の徹底に関して
 - ・何が起きたのか情報
 - ・音声情報の文字化、文字情報の音声化、手話通訳者・要約筆記者の配置、
 - ・携帯電話不通及び携帯電話の電池切れ
5. 移動手段に関して
 - ・車の流失
 - ・ガソリン不足
 - ・杖や車椅子流失
6. 医療に関して
 - ・通院及び薬の問題及び介護用ベッドと緊急時の対応
 - ・停電時の医療機器の通電
7. 就労問題に関して
 - ・事業所及び会社の流失
 - ・就労手続きと支援の在り方
8. 家族依存に関して
 - ・家族任せと自立名目の支援の停止について
 - ・家族扶養義務制度問題
9. 支援スタッフに関して
 - ・行政との連携の構築
 - ・地域住民への支援団体認知の度合いと各団体の連携
10. 支援団体への国・県の助成
 - ・センターの無料提供
 - ・経費&人件費援助
 - ・車両提供
 - ・マンパワー支援

最後に

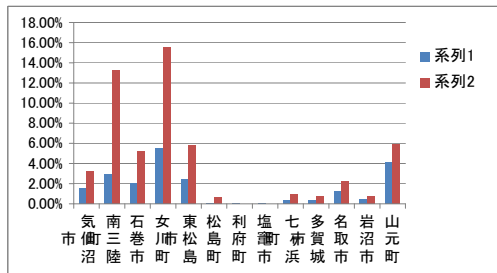
被災地のニーズは時々刻々で変化していきます。そこで暮らす人の願いにしっかりと耳を傾けながら、これから続く復興に長期的な視点を持って、今後も支援活動を継続していきたいと思います。

宮城県沿岸部における住民死亡率と障害者手帳死亡者数及び被災死亡率

市町村名 (沿岸部)	全住民被災関連死亡率			手帳なし住民の被災状況			障害者手帳取得者数と障害者手帳者の被災死亡数及び死亡率											
	住民数 A	死亡者数 C	住民 死亡率	A-B		C-D		障害者 合計			身体障害			知的障害			精神障害	
				住民数	死亡者数	死亡率	手帳数 B	死亡実数 D	死亡率	身障手 帳者数	死亡者 数計	死亡率	療育手 帳者数	死亡者 数計	死亡率	精保手 帳者数	死亡者 数計	死亡率
	※ 仙台市と亘理町は未公表 ※ 住民数Aと手帳数Bは2011年3月1日現在、死亡者数Cは2012年7月6日宮城県公表値 ※ 障害者手帳取得者の死亡実数Dは2012年2月末現在の被災関連死亡数																	
気仙沼市	73,154	1,203	1.64%	68,930	1,066	1.55%	4,224	137	3.2%	3,336	131	3.9%	605	4	0.7%	283	3	1.1%
南三陸町	17,378	610	3.51%	16,436	485	2.95%	942	125	13.3%	735	113	15.4%	136	5	3.7%	71	7	9.9%
石巻市	160,394	3,445	2.15%	152,711	3,048	2.00%	7,683	397	5.2%	6,089	351	5.8%	1,105	28	2.5%	489	23	4.7%
女川町	9,932	595	5.99%	9,412	514	5.46%	520	81	15.6%	432	66	15.3%	63	4	6.3%	25	11	44.0%
東松島市	42,840	1,116	2.61%	40,873	1,001	2.45%	1,967	115	5.8%	1,550	102	6.6%	292	8	2.7%	125	5	4.0%
松島町	15,014	7	0.05%	14,270	2	0.01%	744	5	0.7%	616	5	0.8%	100	0	0.0%	28	0	0.0%
利府町	34,279	10	0.03%	33,262	10	0.03%	1,017	0	0.0%	782	0	0.0%	173	0	0.0%	62	0	0.0%
塩竈市	56,221	45	0.08%	53,376	45	0.08%	2,845	0	0.0%	2,325	0	0.0%	355	0	0.0%	165	0	0.0%
七ヶ浜町	20,353	73	0.36%	19,478	65	0.33%	875	8	0.9%	719	8	1.1%	122	0	0.0%	34	0	0.0%
多賀城市	62,990	213	0.34%	60,719	196	0.32%	2,271	17	0.7%	1,772	16	0.9%	322	1	0.3%	177	0	0.0%
名取市	73,603	943	1.28%	70,150	867	1.24%	3,453	76	2.2%	2,810	68	2.4%	365	4	1.1%	278	4	1.4%
岩沼市	44,160	185	0.42%	42,428	173	0.41%	1,732	12	0.7%	1,333	10	0.8%	272	3	1.1%	127	1	0.8%
山元町	16,608	697	4.20%	15,696	643	4.10%	912	54	5.9%	687	45	6.6%	139	3	2.2%	86	6	7.0%
沿岸部計	626,926	9,142	1.46%	597,741	8,115	1.36%	29,185	1,027	3.5%	23,186	915	3.9%	4,049	60	1.5%	1,950	60	3.1%

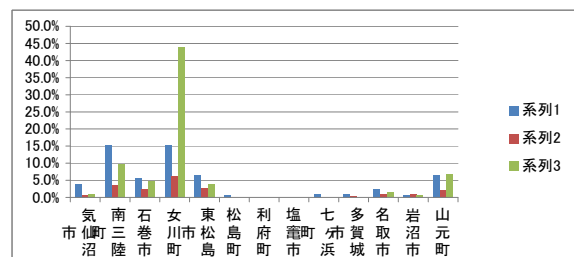
※ 仙台市と亘理町は未公表
 ※ 住民数Aと手帳数Bは2011年3月1日現在、死亡者数Cは2012年7月6日宮城県公表値
 ※ 障害者手帳取得者の死亡実数Dは2012年2月末現在の被災関連死亡数

1 手帳所持者と非所持者との市町別死亡率比較



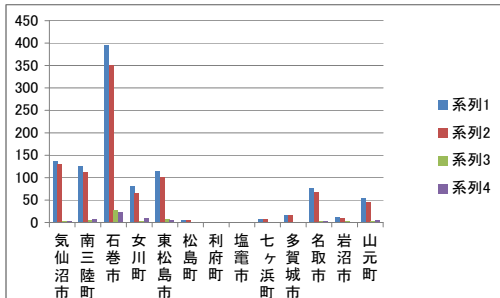
系列1 手帳非保持者死亡率
 系列2 手帳保持者死亡率

2 沿岸部市町における障害別死亡率比較



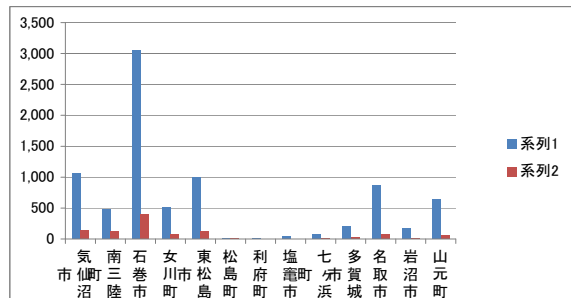
系列1 身体障害者死亡率
 系列2 知的障害者死亡率
 系列3 精神障害者死亡率

3 沿岸部市町における障害別死亡者総数



系列1 障害者死亡総数
 系列2 身体障害者死亡数
 系列3 知的障害者死亡数
 系列4 精神障害者死亡数

4 手帳所持者と非所持者との市町別死亡者数比較



系列1 手帳非所持者死亡数
 系列2 手帳所持者死亡数

パネリストの発表

宮城県肢連：CIL たすけっと 副代表

すぎやま ひろのぶ
杉山 裕信



「同窓会のアンケート結果から見る災害時における障がい者の支援について思うこと」

アンケートの結果、回答をくれた会員の半数以上が被災した後も自宅で過ごしていました。今回の震災では自宅の倒壊を免れた会員は、家が多少壊れてもそこで過ごした会員もいました。やはり自宅の方が暮らしやすいのでしょうか津波で家を流された会員などもありますので、避難所で障がい者も生活できるような避難所のバリアフリー整備を急いでしていただきたい。

被災で会員が困ったことは多種多様であります。地域の力で何とか避難生活ができている会員はいるものの、そういうものがなく孤立している人にとっては県外避難も含め被災地から逃げるか物流などが復旧するまでひたすら我慢するしかありません。障がい者施設や障がい者団体やボランティア団体など何かにかかわっていない会員は支援を受けることができませんでした。これを解決するには次の方法があると思います。地域の力として、民生委員・町内会・中学校・高校・大学それから私たちのような同窓会や市民団体などが連絡をとって安否確認の段階から支援体制を作らなければ、もれなく支援することはできないものと考えます。できるところからはなりますが早急に体制づくりにとりかかっていたいただきたい。

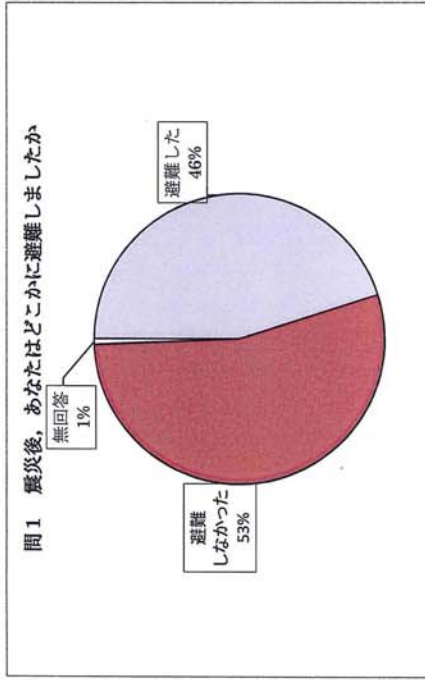
福祉避難所について同窓会アンケート調査をした結果、利用した会員は少なかったのですが、今後身内がいなくなった時に使いたいなど期待は大きいし、必要性は増してくると思われれます。しかし、そのわりにはこの福祉避難所についての認知度は高いとは言えません。その一方で、一般避難所で「あなたは障がい者なんだから福祉避難所に行きなさい」と言われた会員もいました。このようなことがないようにしてほしいと思います。

船岡養護学校同窓会では、同窓会の今後の活動に生かすことや、行政などに要望書を提出するという目的で「東日本大震災に関するアンケート」を同窓会員に送付し、それぞれ回答をしてみました。
 * 22年度までに住所が不明ではない方514人に送付(会員670人)しました。
 そのうち、回答いただいたのは162人でした。
 * 今回、日本郵便から返送されてきたものは、被災地3通(どちらに避難されているか不明のため)、その他17通(住所変更のため)でした。今後も同窓会総会等のお知らせを送付しますので、住所変更があった場合、船岡養護学校同窓会(宮城県立船岡支援学校内)の係りまでお知らせください。

○ アンケートの回答 (平成23年8月末時点での回答です)

問1 「震災後、あなたはどこかに避難しましたか」	した	しない	無回答	計
	61	100	1	162

* 「避難」とは居住地以外の場所への移動と考え、「入所施設・職場や日中活動の場の中で、場所を変えての避難」の場合は、「避難しなかった」ととらえました。



問2 (1) 問1で「避難した」と答えた方に質問します。どこに避難しましたか。

- * 避難所 (集会所・市民センター・学校等) へ。
- * 入所施設・通所施設から自宅へ。
- * 親戚宅、実家へ。
- * 車の中
- * 病院へ
- * 通所施設へ
- など

問2 (2) そこを避難先にしたのはなぜですか。理由をお書きください。

- * 自宅に戻れなかった。
- * 家が津波(地震)で被災したため。
- * 他にいくところが無かったため避難所へ。
- * 津波警報・注意報がでるたび避難を繰り返さなくてはいけないため、落ち着くまでの間、避難所へ。
- * 避難所にいれば、情報や救援物資が入ってくると思われた。余震の続く中、人がいるところにいることが安心だった。
- * 車椅子用のトイレが避難所にあつたため。
- * 避難所が安全なところにあつた。電源(発電機)があつた。
- * 避難所が地域で指定されていて、町内会で行くように指示があつた。
- * 自宅のライフラインが全て使用できなくなったため、病院へ。
- * 施設職員の誘導・指示で、自宅や避難所へ。
- * 比較的被害の少ない親戚宅へ。 など

問3 「ライフライン(水・電気・ガス等)が復旧するまで、何にお困りでしたか?」【複数回答】

①飲料水	68
②生活用水	71
③米や缶詰などの食料	38
④灯油、ガス、乾電池など	67
⑤ガソリン	77
⑥ストーブ、ガスコンロなど	27
⑦服や下着などの衣料品	17
⑧携帯電話	49
⑨ろうそく、使い捨てカイロ、懐中電灯、ラジオなどの非常用の生活用品	26
⑩薬、カテーテル、おむつなどの医療・介護用品	20
⑪車イス	2
⑫トイレ	62
⑬風呂	102
⑭寝る場所	13

⑮その他

- * 布団類。避難先でみんなで一緒の広い部屋だったので眠れなかった。
- * くつ。衣類。 * 施設閉鎖のため、自宅待機となった。
- * 乾電池 * エレベーター * 暖房 * 通院の予約がキャンセルになった。
- * バスが通らなかつた。備蓄ができなかつた。
- * (足りないものを)家族ができるだけ手に入れる努力をした。本人はひたすらストレスを抱えつつ我慢。 * お風呂に入れないため、体の皮膚の状態が悪化した。 * 訪問介護
- * 電動車いすの充電ができなかつた。 * 前から蓄えがあつたため特に困らなかつた。
- * 入所施設で全部やってくれた。 など

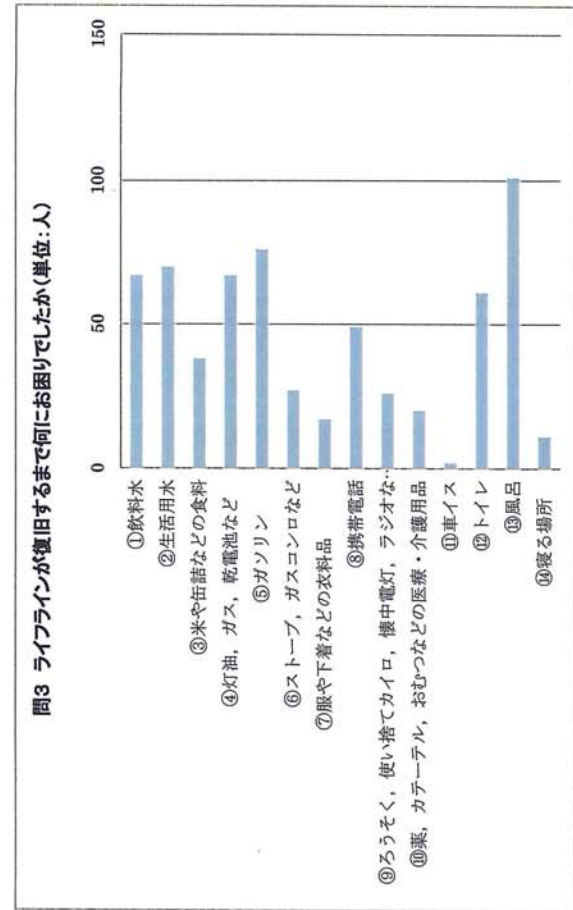
※多い順の表は、問5の下に記載しております。

<p>問5 ライフライン以外のこと困ったことはありましたか？</p> <p>特になし(1,2)</p> <p>*避難所ではなく家にいたのであまりなかった。</p> <p>*近所の方々に食べ物をいただいたりして助けてもらった。</p> <p>医療や医薬品関係(1,0)</p> <p>*薬を手に入れることに苦労した。 *かかりつけの病院がなくなり大変だった。 など</p> <p>*通院するにあたり、家族が仕事を休みながら調整して生活している。</p> <p>ヘルパー・ボランティア関係(8)</p> <p>*ヘルパーさんがある期間ストップしてしまい大変困った。 *ボランティアが少なかった。</p> <p>*水の配給や買い出しに行く際などに見守りしてくれてくれたボランティアがほしかった(2)</p> <p>*介助・介護の手助けがほしかった。作業所は自宅待機となり、いつ再開するか連絡がなかった。 など</p> <p>避難所生活(3)</p> <p>*避難所ではプライバシーがなく、排泄(オムツ交換など)の際、本人にかわいそうな思いをさせた。</p> <p>*障害者(車いすの人)にとつてトイレに困った。</p> <p>*車いすを使用している自分にとっては避難所での生活も難しい。</p> <p>施設利用関係(5)</p> <p>*施設も長期に休みに入り、ただ家にいるだけで退屈だった。</p> <p>*通所施設が被災し、通所できなくて居場所がなかった。</p> <p>*衣類を施設に置いたまままで、着替えがなく困った。</p> <p>*生活介護を利用していただいていたのが、自宅待機となった。</p> <p>*施設が津波被害で利用できなくなり、ずっと祖父母が面倒をみることになった。 など</p> <p>その他(1,6)</p> <p>*電車が止まっていたので、職場まで通えなかった。 *ガソリンや灯油の調達で困った。</p> <p>*タクシー業者と連絡取れなかった。</p> <p>*携帯電話が使えず、友人に連絡できなかった。 *津波警報が出て避難できなかった。</p> <p>*家にいるだけで、外に連れて行けなかったもので、運動不足になった。</p> <p>*情報を入手できず、不安な日々を過ごしていた。</p> <p>*避難所は分かっているにもかかわらず自力で行くことが出来ず、怖い思いをしながらも自宅から出られずずっと自宅で過ごした。</p> <p>*安全な場所には居られましたが、どこにも出かけられなかった。</p> <p>*避難時はほとんど何も持たず、家は津波により流失したため、全てのこと困った。 など</p>

※ 問3「ライフライン(水・電気・ガス等)が復旧するまで、何にお困りでしたか？」

多い順

1. ⑬風呂/2. ⑤ガソリン/3. ②生活用水/4. ①飲料水/5. ④灯油・ガス・乾電池/6. ⑩トイレ/7. ⑧携帯電話/8. ③米や缶詰などの食料/9. ⑥ストーブ・ガスコンロなど/10. ⑨ろうそく・使い捨てカイロ・懐中電灯・ラジオなどの非常用の生活用品/11. ⑩薬・カテーター・おむつなどの医療・介護用品/12. ⑦服や下着などの衣料品/13. ⑭寝る場所/14. ⑩車いす



問4 問3でごまかったことをどうやって解決しましたか。【複数回答】

水関係	*給水所・給水車・学校等の施設を利用 *家族・親戚・知人・近隣住民等の援助
	*井戸水・川の水・雨水などを利用 *少し出た時の水道水をためた
トイレ関係	*ポータブルトイレを利用 *避難所・公園などの施設利用 *風呂の残り湯等を利用
風呂関係	*お湯やウエットタオルで拭いた *知人宅・温泉・入浴施設等を利用 *入浴を我慢
ガソリン・灯油関係	*長時間並んで調達した
食料・衣料・生活用品等	*長時間スーパーやコンビニ等に並んで調達 *家族・親戚・知人等から分けてもらう
	*寒さは厚着で我慢
医療関係	*胃ろうなどの器具はお湯をもらって熱湯消毒
	*震災から1か月後の通院まで、乗やカテーターは何か間合間に合った
	*飲み薬はもらったばかりだった。後日、病院側の連絡を待つ通院
その他(全般的に)	*家族・親戚・友人・知人・近隣住民に協力(援助)してもらった *節水・節約・工夫
	*施設・施設職員・民生委員が支援・対応してくれた *備蓄していたものを利用した
	*回復・復旧するまでとにかく我慢した